

## 那須塩原市立三島中学校 生徒がつくる「地域の人材データベース」

**【活動の概要】** 那須塩原市立三島中学校3年生の総合的な学習の時間では、「地域に学び地域をつくる」の授業の一環として、生徒が様々な分野で活躍する地元の人にインタビューしてまとめた「地域の人材データベース」づくりを行っている。また、データベース登録者を講師として招き、生徒が企画した特別授業「地域のヒトとつくる授業」を行っている。

**【始めるきっかけ】** 3年生の総合的な学習の時間「地域に学び地域をつくる」では、生徒が地域に興味や関心を持ち、地域を知り、地域の在り方を考え、積極的にまちづくりにかかわっていくことを目指している。

学習過程のうち「ふれる・つかむ」では、「地域のモノ、ヒト、コト」についてそれぞれの意味を考えていく。とくに地域で活躍している「地域のヒト」とのふれあいかから、活動の様子や地域への思いなどを直接聞くことにより、生徒が「まちづくり」に主体的に参画しようとする意欲を引き出そうとしている。生徒の学びを地域へと開放し、生徒の学びを通じて地域と学校とをつなぐことをねらっている。地域の人材と生徒が話し合って授業過程をデザインする「地域のヒトとつくる授業」も、生徒の参画の度合いが高くなっている。

**【活動の内容】** 「地域の人材データベース」づくりと「地域のヒトとつくる授業」を含めた子どもたちの活動の流れは次のようになっている。

○地域の「モノ、ヒト、コト」について関心を持ち、それぞれの意味を考える。

「地域のヒト」については、

- ・地域に役立つ働きをした人
- ・地域で活躍をした人
- ・なんらかの特技をもつ人

を自分の身の回りから探して活躍の内容や 学校でどんな内容の授業ができるかをインタビューする。

○子どもたちがインタビューしたことをまとめ、「地域の人材データベース」づくりを行う。

○「地域人材データベース」に登録した地域で活躍する人について発表し合い、 どの人をクラスに招待して話を聞いてみたいかについて話し合う。

○「地域のヒト」を招待して、どのような授業にするか「地域のヒト」と子どもたちで具体的な当日の授業プランを立て、特別授業を行う。

○自分たちができる「まちづくり」にはどんなものがあるかを考える「まちづくりアク



＜特別授業の様子＞

---

シヨンプラン」設計を行う。また、その中からクラスで実現可能なものについて話し合い、立ち上げる。

---

**【成果と課題】**

地域で活躍する人との出会いやふれあいを通して、子どもたちが地域を知り、地域に関心をもつとともに、地域の一員としての自覚が高まった。地域の人にとっても、学校が身近になり、実施後のアンケートでは「また是非この続きをやりたい」という声が寄せられた。

この授業を今後も継続していく中で、地域と学校のカリキュラムとを結ぶことの意義について、教員の共通理解を図っていくことが今後の課題といえる。

---

## ★ ここが特徴！

- ☆ 総合的な学習の時間の中に「地域の人材データベース」づくりと「地域の人とつくる授業」が、カリキュラム化されている。
- ☆ 生徒が自分の身の回りから人材を発掘し、インタビューしたことをまとめ「地域の人材データベース」づくりをしている。
- ☆ 「地域人材データベース」登録者の中から生徒が希望する講師を招いて特別授業を行う。
- ☆ 特別授業の内容は、生徒が提案し、講師とともにつくり、双方の意見が反映されている。
- ☆ 「地域のヒト」からの学びが、まちづくりにつながるカリキュラムになっている。